

釜石市小中学生交流活動

釜石市では、7月に青森県青森市の中学生と、8月に愛知県東海市の小中学生と交流を行いました。

1 青森市中学生との交流

青森市は、平成29年度から釜石市を訪れ、震災復興や戦争・平和について学んできた経緯があります。令和4年度は、お互いの市を中学生が訪問し、見学・体験学習を中心に平和と防災について学びました。両市とも中学1年生10名ずつ、計20名での交流となりました。

(1) 青森市での交流

交流は7月27、28日の2日間でした。1日目は青森市立三内中学校を会場に、避難所運営体験に参



青森空襲資料常設展示室見学の様子（青森市）

(2) 釜石市での交流

8月9日に交流を行いました。いのちをつなぐ未来館では、青森市の生徒と共に震災被害の様子と復興の歩み、防災の大切さについて学びました。また、釜石市戦没者追悼式に参加し、遺族の方々と一緒に平和への祈りを捧げました。郷土資料館においては艦砲射撃の様子を詳しく教わり、被害の大きさを知ることができました。その後、艦砲射撃を経験した秋元厚子さんから戦争体験をお話いただき、戦争時の暮らしや艦砲射撃

加しました。この防災研修では、防災の備えの必要性や避難所運営のあり方を学んだり、防災グッズ（段ボールベッドや簡易トイレ等）の体験をしたりしました。2日目は青森市平和記念式典への参加と市内の震災遺構見学を行いました。平和記念式典では遺族の方や青森市長のお話から平和の大切さを強く感じました。震災遺構見学では空襲被害の様子や状況を詳しく学びました。他の市の取り組みや様子を知ること、新たな気づきを得ると共に釜石市を見つめ直すよい機会となりました。

の恐怖等を具体的に知ることができました。



釜石市交流記念（青森市中学生と一緒に）

二 東海市小中学生との交流

東海市小中学生との交流は令和2年度から実施予定でしたが、感染症拡大のために2年間直接交流ができませんでした。今年度は8月25日に釜石小学校を会場に、東海市小学6年生24名を迎えて、釜石小学校6年生との交流が実現しました。

交流では、お互いの市の様子を紹介したり、学校で取り組んでいる防災活動を発表したりしました。地域によって防災の取り組み方が違うことを知り、防災活動のあり方について考えを深めること



東海市交流記念（東海市小中学生と一緒に）



釜石小学校6年生児童の発表場面

ができました。また、釜石シーウェイブスの方を講師に招いてタグラグビー体験も行いました。一緒に体を動かしながらタグラグビーの楽しさを味わうことができました。両市の交流を深める素敵な時間になりました。

愛知県東海市との 姉妹都市交流献立

令和4年8月25日（木）に、
釜石市・東海市小学生交流事業
に合わせ、姉妹都市交流献立を
実施しました。当日の献立内容
は、「食パン・牛乳・チリコン
カン・おいシーサラダ・ラビオ
リスープ・オレンジ」です。

愛知県東海市は、カゴメ株式
会社発祥の地であるという歴史
的背景をきっかけに、「東海市
トマトで健康づくり条例」を制
定しました。この全国初の条例
の施行を受け、身近で健康に良
いトマトを使った健康づくりを
推進しています。また、毎月10
日をトマトの日と定め、市内の
保育園や小・中学校では、毎月
10日前後の給食で、トマトを使
用した献立の提供を行っていま
す。

釜石市では、加熱調理用クッ
キングトマト「すずこま」の普
及・拡大に向けた試験栽培を実
施しています。学校給食の食材
としても、令和3年度から使用
しています。



すずこまを使用した「姉妹都市交流献立」

当日提供した「チリコンカン」
には、釜石市で栽培された「す
ずこま」を使用し、東海市との
関係が深い「トマトケチャップ」
で調味しました。また、釜石湾
でとれたわかめや、三陸産のめ
かぶ等の海藻をふんだんに使用
した「おいシーサラダ」も組
み合わせ、釜石の魅力も発信で
きるような献立を取り入れまし
た。東海市の小学生からは、両
市の特産物を使用した献立を食
べることができて嬉しかったと
いう声がありました。

今後、給食の献立を通して、
各地の食文化や産業、生産、流
通、消費等について理解を深め
る機会となるよう、献立の工夫
に努めてまいります。

幼児期の学びと小学校教育の 円滑な接続を目指して

円滑な接続を目指して

釜石市では、令和4年度から、
幼児教育推進モデル指定研究事業
として2年間の指定を受け、幼児
教育の充実と、その推進体制づく
りに力を入れております。今年度
は、鶴住居幼稚園、上中島こども
園、釜石こども園の3園を研究指
定園とし、教育委員会と子ども課
が連携を取り合い、研修会等を実
施しております。

幼児期の教育は、生涯にわたる
人格形成の基盤を培う重要なもの
であると同時に、小学校以降の生
活や学習に必要な資質・能力
の基礎を育んでいくものです。こ
のことは、幼児教育が、目先の結
果のみを期待しているのではなく、
「後伸びする力」を培うこと
を重視していることと言えます。

幼稚園、保育園、こども園の種別
に関わらず、特に5歳児の子ども
たちには、「幼児期の終わりまで
に育ってほしい姿」を切り口とし
て、幼児教育を進めることとなっ
ております。

教育と聞くと、字を書いたり、
計算をしたりということをイメー
ジしますが、幼児教育において大
切なのが「遊び」です。

幼児期の「遊び」にはたくさん
の「探究の芽」があります。子ど
もたちは、人や物、自然と関わり、
体を動かしながら「遊び」に没頭
する中で、様々なことを発見した
り、気付いたりします。また、疑
問に思ったことを解決したり、で
きなかったことができるように
なったりと、遊びを通して様々な
経験を積み重ねていきます。こう
した「遊び」を通して繰り返し経
験したことが、「生涯にわたって
主体的に学び続ける力」へとつな
がっていきます。

教育委員会では、そのような幼
児期の学びを小学校へ円滑につな
いでいくことを目指し、幼児教育・
保育施設の職員合同研修会や幼・
小合同の研修会の実施、教育研究
所では幼小接続の研究推進を実施
しております。

6月、7月には、鶴住居幼稚園、
上中島こども園で保育参観を行
いました。幼児施設の先生方を中心
に、小学校の先生方にも数名参加
していただきました。「幼児期の
終わりまでに育ってほしい姿」を
中心に、子どもたちの姿について、
熱心に意見交流が行われました。



上中島こども園における研修会の様子

また、8月には、各小学校、幼児
教育・保育施設の先生方に、平田
小学校の生活科の授業を公開し、
研修会を実施する予定でしたが、
コロナ感染症の拡大により、授業
の様子をDVDにおさめ、それを
視聴していただく研修に変更して
の実施となりました。

県の幼児教育アドバイザーの先
生からは、「子供たちがとても生
き生きとしている。子どもが楽し
いと感じながら学ぶことが、粘り
強く学ぶ態度につながる。また、
環境を整えることで、子どもたち
は自ら試行錯誤し、工夫し、発見
していく。」というアドバイスを
いただきました。

今後も、関係機関と連携しなが
ら、釜石の幼児教育の充実に向け、
取り組んでいきます。

釜石市総合教育会議が開催されました

総合教育会議は、市長と教育委員会が教育の課題や方向性を共有して、連携を深めながら教育施策の協議、調整を行う場として開催されています。

第1回目の会議は、令和4年7月14日（木）に、「不登校問題」を議題として開催されました。

会議には、市長、教育長及び教育委員が出席し、「不登校児童生徒の状況及び増加の要因」、「不登校問題に対する学校並び

に教育委員会の対応と課題」について釜石中学校 齋藤校長、事務局から説明があり、続いて意見交換、協議が行われました。

不登校児童生徒は、当市を含む近隣市町においても増加傾向にあり、全国的にも喫緊の課題となつていきます。教育委員会としても、引き続き関係機関と連携して不登校児童生徒に対する取組を更に進めて、個々の状況に応じて丁寧に対応していくことを確認しました。

《釜石市学校規模適正化検討委員会

が開催されました》

学校規模適正化検討委員会は、

教育長が委嘱した学校関係者、保護者、学識経験者、子ども達の教育や社会活動に関わる団体関係者の委員で構成され、市内小中学校の適正規模や適正配置を検討するため設置されています。

【第6回検討委員会】

令和4年5月30日（月）に、「これまでの経過及び取組」と「令和4年度の計画」を議題として開催されました。

改めて、「検討委員会設置の背景や目的」、「学校規模に対する国の基本的な考え方」、「公立小中学校を取り巻く状況」が説明されました。

また、これまで議論を重ねてきた「当市の学校、児童生徒の現状と今後の推移」、「釜石の子どもたち」にどのような力が必要か、備えたい資質・能力は何か、「小規模校のメリット・デメリット」、「学校の役割」、「部活動の状況」、「学校と地域との関わり」について、各委員の発言を交えながら振り返りました。

令和4年度の計画としては、年5回の検討委員会を開催する予定で、第7・8回の検討委員会で「当市の学校規模適正化をどのように考えるのか」等を議題として協議し、これまでの議論を更に深めた上で、第9・10回の検討委員会で総合的に意見をまとめ、検討委員会として提言を作成することを確認しました。

【第7回検討委員会】

令和4年7月22日（金）に、「当市の学校規模適正化をどのように考えるのか」を議題として開催さ

れました。

中学校の学力面を考えると各教科専門の先生がいることが望ましく、コミュニケーション能力を身に付けて社会性を育む視点、運動会や体育祭、学校行事、部活動と考えた上でも、一定程度の学校規模、児童生徒数が必要ではないか。小学校と中学校では、その役割や実情に違いがあることから、それぞれの規模を分けて考える必要があるのではないか。国の基準に安易に当てはめるのではなく、地域にあつた釜石独自の規模を考える必要があるのではないか。今後、小学校に入学を予定している各家庭の考え方、意見を確認する必要があるのではないか。小規模校のデメリットが議論されることが多いが、メリットにも着目して適正化を検討してほしい等、委員の皆様の立場、経験からの意見がありました。

【第8回検討委員会】

令和4年8月23日（火）に、「当市の学校規模適正化を考える上での配慮すべき事項等について」を議題として開催されました。

次のような項目に配慮等が必要ではないかとの意見が挙げられました。（抜粋）

- ・小学校における複式学級の解消
- ・中学校における免許外の指導の解消
- ・児童生徒、保護者の負担とならない通学手段の確保
- ・学習の質を充実、維持できる環境
- ・クラス替えや部活動が成り立つ規模や人数
- ・高校生の意見を聞く機会も必要ではないか
- ・地域と学校を結ぶ方法と統合を併せて考えることも必要ではないか
- ・今後も少子化が見込まれる中で10～20年先を見据えた検討が必要ではないか
- ・小規模校、複式学級による教職員への負担

学校における食育について

食育とは、生きる上での基本であり、知育・徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付けられています。また、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実現することが出来る人間を育てる食育を推進することが求められています。

釜石市では、「食を通じて健やかな体と豊かな心を育むまちかまいし」を基本理念として、第二次釜石市食育推進計画を策定し、地域や関係団体と連携しながら地域特性を生かした施策を展開しています。

現代の子どもたちは、栄養摂取の偏りや朝食欠食といった食習慣の乱れ等に起因する肥満・やせや生活習慣病等の健康課題が問題視されています。成長期にある児童生徒にとって、健全な食生活は健康な心身を育むために欠かせないものであると同時に、将来の食習慣の形成に大きな影響を及ぼすもので、極めて重要です。

そこで、各小・中学校においては、食に関する指導の全体計画を作成し、学校全体で食育を組織的、計画的に推進しています。毎日の給食

時間のもとより、各教科や総合的な学習の時間、特別活動等において食に関する指導が行われています。

給食時間には、学校給食センターで作成した放送原稿を活用し、献立を教材とした指導が行われています。この放送原稿では、その日の献立のねらいや栄養的な特徴、食品の産地等を知らせたり、郷土食や行事食等の食文化について紹介したりしています。「毎月3日」と「(末尾に)3がつく日」の「カミカミデー」には、その日の給食に使用している噛みごたえのある食品を紹介したり、よく噛んで食べるためのポイントを知らせたりする内容を取り入れています。食事という実体験を通して、食に関する知識理解、関心を深めることができるよう、放送原稿の内容を工夫しながら作成しています。

また、栄養教諭が教室へ出向き、家庭科等の教科や特別活動等において、担任等と連携した食に関する指導も行っています。小学校では、朝食の重要性や望ましい間食のとり方、バランスのとれた食事の必要性について、低学年でも理解できるように、栄養教諭の専門性を生かした分

かりやすい指導を心がけています。中学校では、部活動等で活動量が増加する時期に合わせて、成長期に必要なスポーツ栄養の知識について、学校給食の献立を活用しながら主体的に考えることができるよう取り組んでいます。

子どもたちが健康の大切さを実感し、生涯にわたって自己の健康に配慮した食生活が営めるようにするためには、継続的かつ効果的な指導を行うことが必要です。今後も家庭や地域と連携しながら、釜石の未来を担う子どもたちのために、より良い食育を実践してまいります。



学校における食に関する指導の様子

高橋勝さんが教育長に再任 中田義仁さんが教育委員に就任

高橋勝教育長と教育委員（教育長職務代理者）を務めていた鈴木勝さんが、令和4年9月30日をもって、任期満了となりました。

任期満了に伴い、釜石市議会9月定例会において、議会の同意を得て市長が10月1日付けで、教育長に高橋勝さんを任命しました（2期目）。また、一般社団法人岩手県薬剤師会常務理事や社会福祉法人理事等をされている中田義仁さんを教育委員に新たに任命しました。

教育長職務代理者には、教育長が10月1日付けで福成菜穂子委員を新たに指名しました。



中田 義仁 委員

任期：
令和4年10月1日
～令和8年9月30日



高橋 勝 教育長

任期：
令和4年10月1日
～令和7年9月30日
(2期目)